

# スイス

# Swiss Confederation

	2007年	2008年	2009年
①人口: 778万人(2009年末)			△1.5
②面積: 4万 1,284k m <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP: 6万 7,560米ドル (2009年)			
④実質GDP成長率(%)	3.6	1.8	
⑤貿易収支(スイス・フラン, 財のみ)	139億 5,492万	194億 4,677万	202億 6,360万
⑥経常収支(スイス・フラン)	468億 3,400万	110億 8,500万	446億 6,400万
⑦外貨準備高(米ドル)	444億 7,420万	450億 6,090万	981億 9,940万
⑧為替レート(1米ドルにつき, スイス・フラン, 期中平均)	1.2004	1.0831	1.0881

[出所]①②: スイス連邦統計局, ③⑦⑧: IMF, ④~⑥: スイス国立銀行

2009年のスイス経済は、世界的な景気後退のあおりを受けて、実質GDP成長率がマイナス1.5%と落ち込んだ。貿易額は、輸出入ともに10%以上の減少となったが、貿易収支の黒字幅は過去最大だった前年を上回った。対内対外ともに直接投資は活発さを欠き、不況の影響による資金調達難などから引き揚げ事例も多くみられた。対日貿易は、輸出が増加した一方、輸入が減少したため、貿易黒字額が拡大した。2009年9月に、日本スイス自由貿易経済連携協定(FTEPA)が発効し、両国間の貿易と投資の促進が今後期待される。

## ■ 輸出と設備投資の不振から景気後退

2009年のスイス経済は、世界的な金融危機および景気後退の影響を受け、実質GDP成長率はマイナス1.5%となり、1975年以来最大の下落幅となった。2009年のGDP成長率を需要項目別にみると、これまで経済成長を牽引していた輸出が前年比9.3%減と大きく後退、加えて景気の先行きが不確実なために設備投資も7.5%減となった。これらの背景には、金融・保険分野の業績不振などがある。他方、個人消費が1.2%増、公共消費が2.5%増、さらに建設投資が1.3%増と堅調な内需が景気を下支えた。また、不況のあおりを大きく受けた自動車製造業の主要産業ではないこともあって、スイスの景気の後退幅はユーロ圏や米国、日本などの先進国に比べ、小幅に留まった。2009年後半からは、輸出や設備投資などが回復し、徐々に景気回復の兆しを見せた。2010年に入ってもこの回復基調が継続していることから、2010年の実質GDP成長率について、連邦経済省経済事務局(SECO)は、2009年末の予測(0.7%)を上方修正し、1.8%(2010年6月予測)と見込む。

2009年に入って減少を続けた雇用数は、第4四半期には増加に転じた。失業率(2009年通年で3.7%)も2010年の1月の4.5%をピークに下がり始めた。しかしそのペースは緩慢で、2009年10月から2010年4月までスイスとしては高い4%台の失業率が続いた。輸出が欧米諸国の景気回復頼みであることに加え、ユーロ圏の債務危機に伴うユーロに対するスイス・フラン高、それに伴うデフレ懸念など、2010年の経済に不安要因は少なくない。

消費者物価上昇率(年平均)は、石油価格の下落と、経済の全般的な停滞によって、2009年は前年比0.5%減だった。スイス中央銀行は景気刺激を目的として金融危機直前には2.25%~3.25%だった3ヵ月物ロンドン銀行間

取引金利(LIBOR, 政策金利)の目標範囲を5回にわたり引き下げ2009年3月以降0~0.75%に据え置いている。

## ■ 輸出入とも大幅減少したが、貿易黒字は拡大

2009年の貿易(通関ベース)は、輸出が前年比12.5%減の1,805億 5,100万スイス・フラン(以下CHF)、輸入は同14.2%減の1,603億 3,200万CHFとなり、ともに前年を大きく下回った。貿易収支については、202億 1,900万CHFの黒字となり、過去最高となった2008年の194億 4,600万CHFを上回った。

輸出を商品別にみると、最大輸出品目の医薬品が全体の32.2%を占め、前年比5.3%増と唯一好調だった。もとも医薬品は景気の影響を受けにくい品目であるのに加え、新型インフルエンザの流行により予防治療薬が活発に輸出された。医薬品以外については、ほとんどの品目で大幅な減少となったが、中でも金属・同製品(5.8%)は31.3%減と減少幅が最も大きい。これは、世界的な自動車産業不振の影響と年初の価格低迷によりアルミニウムが33%減と不調だったことによる。また、輸出商品全体の18.7%を占める機械および電気・電子機器が22.9%減、精密機械・時計・装身具(18.0%)が14.7%減など、ほとんどの分野で受注減少の打撃を受けた。スイス時計協会(FH)によれば、時計(7.3%)の輸出は2008年上半年までは輸出の増加が続き好調だったが11月から輸出額が減少に転じ、2009年は前年比22.3%減という結果となった。しかし、2010年に入り、再び輸出が増加し始めており、第1四半期の輸出額は前年同期比16.6%増となった。

国・地域別では、全体の60.4%を占めるEU向け輸出が前年比14.5%減となった。特に、最大の輸出相手国ドイツ(構成比19.5%)が15.6%減と不振だったのをはじめ、イタリア(8.6%)、フランス(8.4%)、英国(4.7%)が順に

表1 スイスの主要品目別輸出入&lt;通関ベース&gt;

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2008年		2009年		2008年		2009年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
農・林業製品	8,455	8,262	4.6	△ 2.3	14,199	13,306	8.3	△ 6.3
燃料・エネルギー	6,513	5,296	2.9	△ 18.7	17,467	12,060	7.5	△ 31.0
繊維・衣料・靴	4,468	3,688	2.0	△ 17.5	10,040	9,040	5.6	△ 10.0
紙・紙製品	3,600	2,938	1.6	△ 18.4	5,646	4,949	3.1	△ 12.3
皮革・ゴム・プラスチック	5,199	4,171	2.3	△ 19.8	6,616	5,810	3.6	△ 12.2
化学品	71,918	71,744	39.7	△ 0.2	38,272	34,925	21.8	△ 8.7
医薬品	55,274	58,180	32.2	5.3	23,749	23,434	14.6	△ 1.3
金属・同製品	15,276	10,489	5.8	△ 31.3	18,089	12,323	7.7	△ 31.9
機械および電気・電子機器	43,806	33,764	18.7	△ 22.9	35,611	29,366	18.3	△ 17.5
産業用機械	27,201	19,726	10.9	△ 27.5	14,945	12,026	7.5	△ 19.5
電気・電子機器	13,515	11,327	6.3	△ 16.2	11,530	9,210	5.7	△ 20.1
輸送用機器	6,094	5,357	3.0	△ 12.1	16,750	15,043	9.4	△ 10.2
道路輸送用機器	2,341	1,847	1.0	△ 21.1	13,431	11,578	7.2	△ 13.8
精密機械・時計・装身具	37,988	32,415	18.0	△ 14.7	15,139	15,372	9.6	1.5
精密機器	14,909	13,843	7.7	△ 7.2	7,101	6,491	4.0	△ 8.6
時計	17,034	13,230	7.3	△ 22.3	2,764	2,226	1.4	△ 19.5
家具・玩具	1,956	1,560	0.9	△ 20.2	5,862	5,237	3.3	△ 10.7
合計(その他を含む)	206,330	180,551	100.0	△ 12.5	186,884	160,332	100.0	△ 14.2

[注] 表2, 10とも, 財のみ。貴金属・宝石, 美術・骨董品を除く。

[出所] 表2, 10とも, スイス連邦関税局。(2009年は暫定数値)

表2 スイスの主要国・地域別輸出入&lt;通関ベース&gt;

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2008年		2009年		2008年		2009年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU27	127,693	109,133	60.4	△ 14.5	151,779	128,743	80.3	△ 15.2
ユーロ圏	107,541	92,311	51.1	△ 14.2	138,325	116,672	72.8	△ 15.7
ドイツ	41,806	35,286	19.5	△ 15.6	64,775	53,823	33.6	△ 16.9
イタリア	18,233	15,455	8.6	△ 15.2	21,351	17,922	11.2	△ 16.1
フランス	17,728	15,224	8.4	△ 14.1	18,044	15,360	9.6	△ 14.9
非ユーロ圏	20,152	16,822	9.3	△ 16.5	13,454	12,071	7.5	△ 10.3
英国	9,695	8,526	4.7	△ 12.1	5,991	5,587	3.5	△ 6.7
ポーランド	2,444	1,815	1.0	△ 25.7	1,278	1,115	0.7	△ 12.8
チェコ	1,852	1,476	0.8	△ 20.3	1,803	1,707	1.1	△ 5.3
ハンガリー	1,169	999	0.6	△ 14.5	1,158	920	0.6	△ 20.6
米国	19,467	17,660	9.8	△ 9.3	9,446	8,120	5.1	△ 14.0
日本	6,288	6,821	3.8	8.5	2,971	2,753	1.7	△ 7.3
中国	5,529	5,403	3.0	△ 2.3	4,980	5,139	3.2	3.2
インド	2,337	2,144	1.2	△ 8.3	897	744	0.5	△ 17.1
ロシア	3,156	2,115	1.2	△ 33.0	479	523	0.3	9.2
韓国	1,889	1,883	1.0	△ 0.3	646	415	0.3	△ 35.8
トルコ	2,468	1,801	1.0	△ 27.0	809	689	0.4	△ 14.8
合計(その他を含む)	206,330	180,551	100.0	△ 12.5	186,884	160,332	100.0	△ 14.2

15.2%減, 14.1%減, 12.1%減といずれも大幅減となった。スイス・フランは2009年を通じて, ユーロおよび欧州通貨に対して高く推移しており, 対ユーロで5%程度, 英国ポンドや中・東欧諸国通貨に対しては15%~20%高くなった。このため, 2004年のEU加盟以来輸出が増加傾向であったポーランド向け(1.0%)が25.7%減, チェコ向け(0.8%)が20.3%減, ハンガリー向け(0.6%)が14.5%減などいずれも激減した。スイスにとっては欧州の新興市場

伸びを見せたが, これは金の価格が上昇したことと, ベトナム政府が外貨繰り改善を目的に制限付きで金輸出を解禁したことから同国からの金地金(加工用)の輸入量が増えたことによる。

国・地域別では, EUが全体の80.3%を占めて最大だが15.2%減少した。国別ではドイツが最大で33.6%を占め, イタリア(構成比11.2%), フランス(9.6%)と上位3カ国だけで54.4%に達するが, いずれも順に16.9%減, 16.1%

であるロシア向け(1.2%)の33.0%減, トルコ向け(1.0%)の27.0%減などの減少ぶりも著しい。EUに次ぐ輸出先である米国向け(9.8%)も9.3%減と不振だった。アジア諸国では中国向け(3.0%)が2.3%減, 韓国向け(1.0%)が0.3%減で, 欧州諸国と比較して減少幅は小さかった。スイスの主要貿易パートナーの中で, 輸出が増加したのは医薬品が好調だった日本向け(3.8%)の8.5%増だけだった。

輸入を品目別にみると, ほぼ全品目で減少した。輸入全体の21.8%を占め最大品目の化学品は, 医薬品(14.6%)の減少幅が1.3%減にとどまったものの, 化学産業の原料となる基礎化学品が26.5%減と大幅減となったため, 化学品全体では8.7%減となった。これに次ぐ機械および電気・電子機器(構成比18.3%)も17.5%減と不振だった。輸出同様, 金属・同製品(7.7%)も31.9%減と大幅減となるなど, ほとんど全ての分野で減少となった。前年大幅増だった燃料・エネルギー(7.5%)も石油価格下落により, 31.0%減と減少した。道路輸送用機器(7.2%)も13.8%減だった。乗用車の輸入台数は11.7%減とスイス国内の景気低迷を反映して減少している。また, 精密機械・時計・装身具(9.6%)が唯一1.5%増という

表3 スイスの対内・対外直接投資の推移  
 <国際収支ベース、ネット、フロー、残高>

(単位:100 万 CHF)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2009年 末残高
対内直接投資額	△1,184	39,132	62,037	5,508	10,550	477,945
対外直接投資額	63,651	95,071	67,931	55,393	16,867	829,325

[注] 表4~5,7~8とも2007年,2008年は暫定値,2009年は速報値。  
 [出所] 表4~5,7~8とも,スイス国立銀行。

表4 スイスの業種別対内直接投資<国際収支ベース>

(単位:100 万 CHF, %)

	ネット、フロー			残高	
	2007年	2008年	2009年	2008年末	構成比
製造業	28,198	209	4,555	72,308	15.5
化学	17,188	△ 541	n.a.	39,440	8.4
金属・機械	6,375	1,014	n.a.	9,659	2.1
電気・光学・時計等	3,655	△ 988	n.a.	14,780	3.2
サービス	33,839	5,299	5,994	394,813	84.5
商業	2,431	△ 6,057	n.a.	41,810	9.0
資金運用	18,393	6,470	5,030	269,980	57.8
銀行	3,420	2,603	n.a.	38,380	8.2
保険	1,615	1,304	n.a.	11,026	2.4
運輸・情報	6,618	314	n.a.	12,747	2.7
合計(その他を含む)	62,037	5,508	10,550	467,122	100.0

表5 スイスの国・地域別対内直接投資<国際収支ベース>

(単位:100 万 CHF, %)

	ネット、フロー		残高	
	2007年	2008年	2008年末	構成比
欧州	57,069	△ 5,390	332,653	71.2
EU27	58,181	△ 4,433	329,370	70.5
オランダ	21,632	△ 14,690	93,645	20.0
オーストリア	13,031	4,139	61,143	13.1
ルクセンブルク	833	11,095	58,404	12.5
ドイツ	16,113	△ 689	38,126	8.2
フランス	1,919	△ 2,883	34,578	7.4
英国	△ 460	△ 4,409	9,627	2.1
イタリア	778	1,187	5,844	1.3
ベルギー	931	△ 1,973	4,365	0.9
スペイン	△ 263	15	4,151	0.9
スウェーデン	1,394	467	3,295	0.7
北米	4,825	12,628	88,079	18.9
米国	3,770	13,290	86,471	18.5
中南米	184	△ 1,513	42,634	9.1
アジア・大洋州・アフリカ	△ 42	△ 218	3,756	0.8
日本	△ 44	△ 491	628	0.1
合計(その他を含む)	62,037	5,508	467,122	100.0

[注] 表8とも2009年の国別統計は未発表。

減,14.9%減と大幅減となった。スイス側の景気の低迷も一因ではあるが,スイス・フラン高により,数量ベース以上に金額ベースの減少幅が大きい。米国(5.1%)からの輸入も14.0%減少した。中国(3.2%)からの輸入は年々増加しており,2009年も3.2%増と堅調な伸びを示した。前

年に大きく減少したロシアからの輸入は回復し9.2%増となった。リビアは近年,スイスの石油輸入先として輸入量が急増しており,2008年には前年より倍増したものの,同年秋にスイスとリビアの外交関係が悪化,2009年には同国からの石油輸入は80%減となった。代わってアゼルバイジャンからの輸入額が3倍に拡大した。

### ■対内・対外ともに投資は全般に低調

スイス国立銀行によれば,2008年の対内直接投資額(国際収支ベース,ネット,フロー,対外も同じ)は,55億800万CHFとなり,過去最高を記録した2007年の620億3,700万CHFを大きく下回った。2007年には,外国企業によるスイス企業の大型買収や再投資が盛んに行われたが,2008年には買収・再投資とも減少し,投資引き揚げのケースも多々みられた。製造業関係では,フランスのLVMH モエヘネシー・ルイヴィトン(飲料・衣類等ブランド品)によるウブロ(時計)の買収(5億CHF),オランダのハイネケン(ビール)によるアイヒホフ飲料部門(同)の買収(2億9,000万CHF),ドイツのボッシュ(自動車機器,電動工具)によるジア・アブラシブス(研磨機システム)の買収(1億5,400万CHF)など,比較的小規模な取引に留まった。サービスでは,金融分野で利潤の再投資が減少し,商業分野で投資引き揚げが行われた。国・地域別にみると,対内投資の大半が欧州および米国からで占められていることがわかる。しかし2008年は,EUからの投資引き揚げが多く行われた。

2009年の対内直接投資額は,105億5,000万CHF(スイス国立銀行速報値)となり,前年に比べ増加したものの,金融危機による資金調達難も影響し,投資活動は低調だった。詳細な業種別統計は2010年6月現在発表されていないが,製造業部門は45億5,500万CHFで前年の2億900万CHFから拡大した。また,サービス部門は59億9,400万CHFでほぼ前年並となっており,そのうち50億3,000万CHFは資金運用部門によるものだ。主要投資案件をみると,最大は8月にアフリカ西部で油田開発を行っているアダックス・ペトロリアムを中国石油化学集团公司(シノペック)が75億6,500万ドルで買収した案件だ。これに次ぐのが,前年着手したドイツのBASF(化学)によるチバ・スペシャリティ・ケミカルズの買収(61億CHF)である。化学部門ではこのほか,三菱樹脂がオランダ子会社アクアミットを通じてプラスチック加工大手クオドラントを買収した案件のほか,7月にはフランスのサノフィ・アベンティス(医薬品)によるヘルベファルマ(後発医薬品)の買収,9月のスペインのナトラ(チョコレート)によるバリー・カレボー(チョコレート)の家庭用チョコレート部門の買収,ドイツのSAP(ITサービス)によるSAF(同)の買収などがあげられる。

表 6 2009 年のスイスの主要対内直接投資案件

買収・投資企業(業種)	買収・投資企業の国籍	スイス企業(業種)	金額	時期
中国石油化工集团公司(石油)	中国(カナダ法人経由)	アダックス・ベトロリアム(石油開発)	75 億 6,500 万ドル	8 月
BASF(化学)	ドイツ	チバ・スペシャリティ・ケミカルズ(化学, 出資比率:95.94%)	61 億 CHF	4 月
バークシャー・ハサウェイ(損害保険)	米国	スイス・リー(再保険, 出資比率を 23.19%に引き上げ)	30 億 CHF	3 月
パートナー再保険	バミューダ	パリ再保険	14 億ドル	7,10,12 月
エリクソン・モバイル・プラットフォームズ(通信機器)	スウェーデン	ST-NXP ワイヤレス SA(電子部品)合弁会社設立(出資比率 50:50)	11 億ドル	2 月
アーバル・インベストメンツ(投資会社)	アラブ首長国連邦	AIGプライベート銀行	4 億 7,000 万 CHF	4 月
アクアミット(三菱樹脂のオランダ子会社)	日本	クオドラント(プラスチック加工, 出資比率 95.36%)	1 億 4,850 万 CHF	8 月
カッサ・デポジティ・プレス・ティティ(金融)	イタリア	ST マイクロエレクトロニクス(半導体)	n.a.	12 月
ゼリア新薬工業(医薬品)	日本	ティロツツ・ファーマ(医薬品, 出資比率: 13.77%)	1 億 3,600 万 CHF	9 月
SAP(ソフトウェア)	ドイツ	SAF(ソフトウェア, 出資比率:61.64%)	5,300 万 CHF	10 月

〔出所〕表 9 とも各社発表, 各種報道に基づきジェトロ作成

金融・保険部門では, 3 月に米国のバークシャー・ハサウェイ(ホールディング)がスイス・リー(再保険)への出資比率を拡大したほか, バミューダのパートナー再保険がパリ再保険を買収した。

スイスの有利な税制や立地条件の良さに加え, 優秀な人材の豊富さ, 多国籍企業が多く存在し国際的に開放的であることなどを理由に, スイスに本社を移転したり欧州支社を開設したりする例は引き続き多い。2009 年には, 米国のロード・コーポレーション(航空産業技術), プラット&ホイットニー(航空機用エンジン), マクドナルド(ファーストフード), ノルウェーのセンソナー・テクノロジー(センサー開発), 英国のザ・エコノミスト・グループ(出版), 仏・伊・スウェーデンの ST エリクソン(携帯電話技術), 米国のステメディカ(バイオテクノロジー)などが, それぞれ国際本社や欧州統括拠点をスイス国内に設立している。なお, スイスでは, 2010 年 1 月より付加価値税(VAT)法が改正され, EU では VAT 課税事業者とはみなされていない「純粋持株会社」でもスイス国内で登記し VAT 登録をしてい

れば, 一部 VAT の税控除を受けることが可能になった。

2008 年の対外直接投資額は, 553 億 9,300 万 CHF で, 前年を下回ったが, 投資活動は引き続き活発だった。ノバルティス(医薬品)によるネスレが所有する米国のアルコン(眼科医療機器)株の買収(113 億 CHF), ロシュ(医薬品)による米国のベンタナ(同)買収(38 億 8,400 万 CHF)など医薬品や医療機器が例年同様, 活発だったほか, エクストラータ(鉱山開発)によるオーストラリアのジュビリーマインズ(同)買収(32 億 CHF)など資源関連の案件もみられた。スイスの対外投資残高を国・地域別にみると, 欧米だけで 7 割弱を占め, アジアは全体の 1 割に満た

表 8 スイスの国・地域別対外直接投資<国際収支ベース>

(単位:100 万 CHF, %)

	ネット, フロー		残高	
	2007 年	2008 年	2008 年末	構成比
欧州	42,360	35,520	374,504	46.3
EU27	34,605	12,554	302,179	37.4
ドイツ	4,314	5,625	56,043	6.9
英国	7,490	△ 11,645	50,718	6.3
フランス	6,185	3,253	35,169	4.3
オランダ	△ 618	4,811	34,891	4.3
ルクセンブルク	11,283	12,169	25,467	3.1
イタリア	8,490	952	21,894	2.7
スペイン	△ 2,288	△ 94	15,398	1.9
ベルギー	1,269	258	12,493	1.5
オーストリア	671	△ 2,716	7,936	1.0
スウェーデン	104	1,926	4,124	0.5
北米	1,539	24,524	181,674	22.5
米国	△ 959	2,520	149,402	18.5
中南米	17,489	△ 9,664	157,325	19.5
アジア・大洋州・アフリカ	6,543	5,011	95,064	11.8
シンガポール	△ 1,528	△ 16,606	8,159	1.0
日本	2,420	1,339	14,840	1.8
中国	776	1,420	6,781	0.8
インド	630	1,202	2,360	0.3
合計(その他を含む)	67,931	55,393	808,566	100.0

表 7 スイスの業種別対外直接投資<国際収支ベース>

(単位:100 万 CHF, %)

	ネット, フロー			残高	
	2007 年	2008 年	2009 年	2008 年末	構成比
製造業	24,847	37,055	3,605	325,013	40.2
化学	7,308	14,785	n.a.	139,028	17.2
金属・機械	5,079	4,307	n.a.	50,228	6.2
電気・光学・時計等	827	8,874	n.a.	36,004	4.5
サービス	43,084	18,337	13,262	483,554	59.8
商業	△ 381	3,886	n.a.	27,501	3.4
資金運用	21,780	8,454	5,256	243,574	30.1
銀行	12,187	13,589	n.a.	92,706	11.5
保険	△ 3,444	△ 7,994	n.a.	96,870	12.0
運輸・情報	7,556	592	n.a.	11,788	1.5
合計(その他を含む)	67,931	55,393	16,867	808,566	100.0

表 9 2009 年のスイスの主要対外直接投資案件

スイス企業(業種)	被買収・投資先企業(業種)	国籍	買収・投資額	時期
ロシュ(医薬品)	ジェネンテック(医薬品)	米国	501 億 5,000 万 CHF	3 月
グローバル・インフラストラクチャー・パートナーズ(投資会社)	ロンドン・ガトウィック空港	英国	15 億ポンド	12 月
エクストラータ(鉱山開発)	プロデコ炭鉱(石炭)	コロンビア	20 億ドル	3 月
チューリッヒ・ファイナンシャル・サービス(生命保険)	21st センチュリー・インシュアランス・グループ(AIGの米国個人向け自動車保険事業部門)	米国	19 億ドル	7 月
ホルシム(セメント)	セメックス(セメント)の豪州事業	メキシコ	17 億 7,000 万 CHF	10 月
ノバルティス(医薬品)	エーバーヴェー・ファーマ(医薬品)	オーストリア	14 億 CHF	9 月
グローバル・インフラストラクチャー(投資会社)	チェサピーク・エネジー(石油ガス開発)とJV設立	米国	5 億 8,800 万ドル	9 月
ウェザーフォード・インターナショナル(石油開発)	TBK-BP(石油開発)	ロシア	n.a.	7 月
ソノバ・ホールディング(医療機器)	アドバンスド・バイオニクス(医療機器)	米国	4 億 8,900 万ドル	11 月
ロジテック(コンピューター用機器)	ライフサイズコミュニケーションズ(TV会議システム)	米国	4 億 500 万ドル	12 月

ない。今後は欧米以外、特にアジアなど新興市場向けの投資拡大が期待されているが、2009 年も対外投資の殆どが欧米に集中した。

2009 年の対外直接投資額は、168 億 6,700 万 CHF(スイス国立銀行速報値)と、前年を大きく下回る結果となった。特に製造業では前年の 370 億 5,500 万 CHF から 36 億 500 万 CHF へと激減した。景気の先行き不透明感と資金調達難によるもので、主要投資案件をみると、不況の影響を免れ、大企業が多く自己資本の充実した医薬品業界による活動の活発さが目を引く。2009 年の最大の投資案件は前年に発表され 3 月に買収手続きが完了したロシュ(医薬品)による米国ジェネンテック(同)買収(501 億 5,000 万 CHF)である。また、9 月のノバルティス(同)によるオーストリアのエーバーヴェー・ファーマ(後発医薬品)買収(13 億 9,970 万 CHF)も大型案件だ。同社はワクチンの新興国での製造にも積極的に乗り出しており、11 月には中国のワクチンメーカー浙江天元生物薬業の株式 85%を 1 億 2,820 万 CHF で取得した。サービス部門の直接投資額は 132 億 6,200 万 CHF で前年の 183 億 3,700 万 CHF からは縮小した。金融・保険部門で大型案件としてチューリッヒ・ファイナンシャル・サービスによる米国の AIG(保険)の自動車保険部門の買収(19 億ドル)があった一方で、金融危機による資金繰りのため、海外に所有する資産を手放したり、部門を売却したりしたケースが多くみられた。例えば、UBS は 7 月にブラジルに所有するバンコ UBS パクチュアル(金融サービス)を BTG インベストメンツ(投資)に売却(28 億 CHF)した。コフラ・ホールディング(プライベート・エクティティ)もブラジルに所有するバンコ IBI(銀行)をバンコ・ブラデスコ(銀行)に売却(7 億 7,140 万 CHF)した。クレディ・スイス(銀行)が米国のグレート・アメリカン・グループ(アセット・マネジメント)の所有株をグレート・アメリカに売却(3 億 3,682 万 CHF)した。このほか、

UBS はバンク・オブ・チャイナの所有株を売却し、さらに米国に所有する UBS ウェルス・マネジメントの 55 支店をステイフェル・ファイナンシャル(投資銀行)に売却(5,180 万 CHF)した。

### ■貿易、投資とも低調な中、日スイス経済連携協定発効

2009 年の対日貿易は、輸出が前年比 8.5%増の 68 億 2,100 万 CHF、輸入が 7.3%減の 27 億 5,300 万 CHF となった。ほとんどの主要貿易相手国への輸出が減少する中、対日輸出は増加し、スイス側の貿易収支の黒字幅は 40 億 6,800 万 CHF に拡大した。

対日輸出品目をみると、最大の輸出品目は医薬品で全体の 56.4%を占めている。2009 年は新型インフルエンザの流行と、原料価格の値上がりにより 45.8%の増加であった。これに次ぐのが時計(構成比 10.5%)だが、高価格帯を中心とするスイスの時計は日本の不況により販売が低迷し、34.9%減と大幅減となった。09 年に大幅な伸びを示した品目として、タバコ(2.8%)の輸出増加(4.3 倍)があげられる。フィリップ・モリスのスイス工場で生産されたタバコについて、「これまで第 3 国を経由して日本に輸出していた分を 2009 年から統計に入れることにした」(連邦関税局)ことが背景にある。

対日輸入では、最大の輸入品目である乗用車(構成比 33.8%)が 7.8%増の伸びを示した。2009 年には円高が進み、円はスイス・フランに対して 10%程度高くなった。日本の乗用車輸出は欧州各国の景気低迷と円高により苦戦したが、スイス向けは数量ベースでも 1.7%増で、スイス全体の乗用車輸入が不振の中で健闘した。医薬品(14.5%)も 12.7%増と好調だったが、建設機械(6.0%)が 14.6%減、化学原材料(5.2%)が 31.1%減、光学機器(4.9%)が 15.5%減などにみられるようにそのほかの主要

表 10 スイスの対日主要品目別輸出入上位 10 品目&lt;通関ベース&gt;

(単位:100 万 CHF, %)

品目	対日輸出 (FOB)				対日輸入 (CIF)				
	2008 年	2009 年			品目	2008 年	2009 年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
医薬品	2,637	3,845	56.4	45.8	乗用車	863	930	33.8	7.8
時計	1,095	713	10.5	△ 34.9	医薬品	354	399	14.5	12.7
医療機器	291	328	4.8	12.7	装身具・装飾品	338	267	9.7	△ 21.0
化学品	166	212	3.1	27.7	建設機械	192	164	6.0	△ 14.6
タバコ	45	194	2.8	331.1	化学原材料	209	144	5.2	△ 31.1
装身具, 装飾品	275	194	2.8	△ 29.5	光学機器	161	136	4.9	△ 15.5
電気・電子部品	145	123	1.8	△ 15.2	電気・電子部品	117	108	3.9	△ 7.7
計測機器	134	116	1.7	△ 13.4	時計	58	70	2.5	20.7
衣類	106	87	1.3	△ 17.9	時計部品	65	32	1.2	△ 50.8
機能付繊維	35	55	0.8	57.1	商用車	39	32	1.2	△ 17.9
合計(その他を含む)	6,288	6,821	100.0	8.5	合計(その他を含む)	2,971	2,753	100.0	△ 7.3

品目は大幅な減少となった。

2008 年の日本からスイスへの直接投資は前年に引き続いて引き揚げ超過(4 億 9,100 万 CHF)となった。スイスから日本へは 13 億 3,900 万 CHF で前年の 24 億 2,000 万 CHF から大幅に減った。

2009 年に入って日本からスイスへの投資は活発化しており, 8 月に三菱樹脂がクオドラント(プラスチック加工)を買収(1 億 4,850 万 CHF)したほか, 9 月にゼリア新薬工業(医薬品)がティロツツ・ファーマ(同)を買収(1 億 3,600 万 CHF)した。また, 11 月に豊田自動織機はウスター(紡績糸)の株式 22.46%を取得(4,387 万 CHF)した。2010 年 1 月には, 資生堂が販売代理店の株式を 100%取得して完全子会社化し, 資生堂スイスとして営業を開始したほか, 並木精密宝石(マイクロモーター)がローザンヌ連邦工科大学(EPFL)敷地内にあるサイエンスパークに支社を設立したことなどが挙げられる。一方, 引き揚げ事例としては, 2009 年 4 月に王子製紙がイルフォード・イメージング(インクジェット紙)を英国のパラダイム・グローバル・パートナーズに売却することを発表した。

一方, 2009 年のスイスから日本への投資事例としては, ネスレ(食品)が東京大学との提携で同大学内に日本初の研究ユニットを開設した。3 年間で 100 万 CHF を投資して, 同大学と共同で健康と栄養の基礎研究を行っている。

2009 年 9 月 1 日, 日本とスイスの自由貿易・経済連携協定(FTEPA)が発効した。日本が欧州と締結した初めての EPA で, 関税削減(10 年以内に両国の貿易額の 99%以上の関税が撤廃), 市場アクセス改善, 投資保護やサービス貿易の自由化促進, 原産地証明で初の自己証明制度の導入などが盛り込まれている。そのほか, 日本企業がスイスに現地法人を設立する際の便宜(滞在許可証の数量制限の緩和, 現地法人の取締役に対する国籍要件の撤廃)など, 日本企業がスイスに進出する際, 妨げとなってきたいくつかの問題が協定の交渉を通じて解決され

た。

スイス政府は 2009 年 12 月, 最近の失業率の上昇を理由として, 欧州経済領域(EEA)域外からの労働者に対する労働許可証発給数を 2009 年に比べて半減する決定を行い, 米国系企業を中心に本国の人材を活用できない企業からが不満の声が高まったが, 日系企業については, FTEPA の施行以降, 日本からの一定の役職以上の転勤者, スキルを有する者に対する労働許可は数量制限の枠外となり, 当該規制の影響を受けることなく事業の円滑化を図れるようになった。本協定の効果については未だ数字の上で評価するのは困難であるが, こうしたビジネス環境の改善は, 徐々に両国経済の緊密化をもたらすと期待されている。

また, 2010 年 5 月 21 日, 日本とスイス租税条約改正のための協約が署名された。両国は, 新条約の 2011 年中の発効と 2012 年 1 月 1 日からの適用を目指し, 両国国会での批准作業を進めている。新条約には, 送金課税の免税枠拡大や課税率の引き下げが盛り込まれ, 双方の貿易・投資の一層の促進に寄与するとみられている。